

## 平成22年定例第3回金沢市議会

平成22年9月16日

○粟森 慨議員 質問の第1は、高齢者の所在確認についてであります。

東京都足立区で1899年生まれの男性が白骨化した状態で発見されたことを発端に、全国の自治体から所在不明の高齢者が続々と報告されているところがございます。そこでまず、金沢市における100歳以上の高齢者の人数と安否確認の結果をお聞きするとともに、どのような方法で確認されたのかお尋ねいたします。

また、100歳以下であっても、行政や地域の支援が必要な高齢者の方々の状況を把握することは重要であります。どのような方法で調査を実施しているのかお聞かせください。

加えて、今回の所在不明高齢者への対応は、地域での高齢者の各種支援や福祉防災台帳の整備に役立つなど、民生委員を初めとする地域の方々と行政が協力し、高齢者の見守りネットワークを構築し、維持していかなければなりません。そこで、この点について、本市の今後の対応について方針があればお聞かせください。

質問の第2は、金沢市非常勤職員の報酬等に関する条例についてであります。

本年7月の参議院議員選挙で当選した新人や元職に、任期のスタートした7月26日からの実労働6日間で1カ月分の歳費約130万円が満額支給されたという報道があり、国民から厳しい指摘があったことは記憶に新しいところでございます。その後、こうした世論の批判を考慮して、与野党が協議した結果、さきの臨時国会で25日分の歳費について自主返納を可能にする法改正が行われた一方で、日割り支給への改正は先送りになりました。このような月額支給の制度は、国会議員に限らず、地方自治体にも依然残っており、我々金沢市議会の議員報酬一つを例にとっても、議員の就任時は日割りで支給されながら、退任時の報酬は月額支給になっております。

ところで、石川県内に属する自治体議員の議員報酬の支払い制度であります。就任時に月額で支給されているのは小松市と志賀町の2自治体、退任時の月額支給はこれに金沢市と津幡町を加えた4自治体であります。しかし、津幡町はこの9月定例会で関係条例を改正し、日割り支給に変更する方向で進んでいることから、退任時の月額支給は本市を合わ

せて3自治体になります。また、中核市40市を見ると、議員報酬の退任時における月額支給を行っているのは本市を含め10市ございますが、これらの市は議員の任期が月末までで、本市のように月の頭が任期満了のところはございません。こうした議員報酬だけではなく、本市の非常勤職員の報酬、費用弁償及び期末手当について定めたものが金沢市非常勤職員の報酬等に関する条例であります。この条例について幾つかお伺いいたします。

まず、日割り支給ではなく月額支給であることにより、これまで本市の財政にどの程度の影響を及ぼしているのかお聞かせください。

次に、なぜこの条例で退任時の報酬を月額と定め続けてきたのか、また、この月額報酬から日割り報酬に見直す議論がこれまでなかったのかお伺いいたします。

加えて、本市議会、本市非常勤職員の退任時の月額支給は特権的にとられかねない制度であると考えますが、市民がどのように考えているとらえているのかお聞かせください。

このような月額支給について、もちろん議会サイドからの検討や意見も必要ではありますが、市民に対して、本市としての態度も明らかにしていかなければなりません。今後、この条例の改正を視野に議論されるべきと考えますが、どのように取り組まれていかれるのかお伺いいたします。

質問の第3は、本定例会の補正予算で計上されております金沢まちなか学生交流街拠点整備事業費についてであります。

この事業費は、本年4月1日施行の学生のまち推進条例の実践に向けて、学生がまちなかに集い、活動を進めるほか、市民や商店街との交流・連携によって、まちなかをさらに活性化することを目的に、その拠点となる施設を整備するものだと聞いております。その際、拠点施設として、市指定保存建造物である佐野家住宅を修復して、まちなか学生の家を整備し、加えて旧料亭カワシンの大広間部材を用いた交流ホールを新設するお考えだとお聞きしております。この施策を展開するに当たり、今定例会に1億1,400万円の補正予算を計上しており、その後の予定を含めると、総額約5億円程度の予算が必要であるとお聞きをしております。一方で、この学生のまち推進条例の目的は、地域社会が可能性豊かな学生をはぐくみ、学生と市民との相互の交流や学生と金沢のまちとの関係を深めながら、学生のまちと

しての金沢の個性と魅力をさらに高めていくというものでございます。また、基本理念では、学生の自主性を尊重しながら、自主的な活動を促進させることや、相互の理解と連携のもとに協働していくことを述べられております。そこでの本市の役割は、施策に学生ほか関係者の意見を十分反映させるよう努めるとともに、施策の実施に当たっては、これらの者の理解と協力を得るよう努めるとあります。つまり、そのねらいは学生の積極的な参加のもと、その後押しを行政が行っていくことだと多くの方々は理解されているのではないのでしょうか。これらのことから考えると、学生側から提案があったわけでもなく、施設に対する議論が進んでいないこの時点で、このまちなか学生の家や交流ホールの整備に総額約5億円をかけて進めていくことに対し、いささか拙速だと感じておりますが、いかがでしょうか。

加えて、5億円という税金を市民生活や雇用を守る分野に投資することのほうが、はるかに今、重要ではないかと考えますが、お答えください。

ところで、本来、学生が集う場所といえば、豎町商店街や香林坊、武蔵、金沢駅、もしくは学校周辺といったところを連想するのは私だけではないと思います。一方、今回のまちなか学生の家や交流ホールの施設整備は、歴史的建造物を新たに保有するといった、全く別の事業を学生のまち推進条例の実践という名をかりて進めているのではないかという意見をよく耳にしますが、こうした意見に対し、どのような説明をされるのかお聞かせください。

また、この計画は、議会に報告される以前に大きくマスコミで報道されたことで、議会側から、決定していない時点での先行報道に対し不満の声も上がっておりました。このような多選の弊害とも議会軽視とも受け取れる行為をたびたび重ねてこられました。議会との関係についてどのように認識されているのかお答えください。

質問の第4は、本市職員の不祥事件とその対応についてであります。

昨今、公務員の不祥事件がたびたび報道に取り上げられております。これまで、金沢市においては、職員が逮捕されるに至った事件は特に目立ちはありませんでしたが、本年を含め、ここ3年間は毎年2人の逮捕者が出たことに加えて、この8月に、人事権は県にあるとしても、金沢市立小学校の教諭が逮捕されるなど、過去に例を見ないペースで逮捕者が相次ぐ事態に陥っております。これだけ不祥事件が立

て続けに起きている状況からすると、本市の管理能力と事の重要性の認識が欠如しているとしか考えられません。その証拠に、今定例会の市長提案理由説明の中で、公務員倫理の徹底を図り、再発の防止に真剣に取り組んでまいりますとともに云々とおっしゃっておられましたが、この説明では、これまで再発の防止に真剣に取り組んでいなかったことを表明しているようなものでございます。そこで、この発言をどのような意図でされたのか、加えて、逮捕者が相次いでいる状況に対し、どのような認識を持っておられるのか、改めてお伺いいたします。

ところで、本市職員の逮捕が報道されることで、またか、公務員はどうなっているんだ、金沢市は何をしているんだなどの厳しい声が数多く耳に入ります。一般的に、民間企業では、社員が逮捕されるといった事件が起こると、一気に信用を失い、売り上げを落とすなど、大きな痛手を負います。そこからの信頼回復と組織の再生のため、トップがみずから職を辞することで責任をとることはしばしばございます。本市においても、行政のトップが職を辞して責任をとることを考えるべきこの状況下で、6選に向けて立候補を表明されることは全く理解ができませんし、このような感覚と行動こそが多選の弊害の一つであると言っても過言ではございません。そこで、こうした事件が発生した際、本市は管理監督責任をとって、市長を初め局長、課長が減給や訓告といった処分を受けていますが、これで市民の納得が得られ、再発防止につながると考えておられるのか、これまでの処分の実績を踏まえ、その認識の程度をお伺いいたします。

質問の第5は、11月28日に行われます市長選挙についてであります。

通常、選挙は現職が有利であると言われており、特に首長選挙ではその傾向が顕著でございます。その理由の主なものに、さまざまな会合に出席し、首長としてあいさつができ、顔を売る機会が多いことや、現職は自分の職務として行政の広報やマスコミを利用できることなどが挙げられます。今回、市長は、選挙告示まで10週間余りしか残されていないこのタイミングで立候補を表明され、一般的に新人は不利だと言われている首長選挙に新人が立候補しにくい状況をつくる大作戦を実行し、現職有利の構図を固め切ったとも受け取れますが、このタイミングでの立候補の表明について、どのように考えておられるのかお聞かせください。

続いて、6選の出馬表明をされた提案理由説明の発言について幾つか確認をさせていただきます。

まず、「市民の暮らしを第一に、まちの安定的かつ持続的な発展に努めることが肝要である」と表現されていますが、現状の市民の暮らしをどのようにとらえているのか、また、市民にとって、まちの安定的かつ持続的な発展より肝要なことはないのかお聞かせください。

次に、「北陸新幹線の金沢開業を4年後に控え、その道程を一層確かなものにしてまいらねばならない」と当然のことを言われておりましたが、新幹線が2014年度に開通することは2004年には決定していたにもかかわらず、この在任期間内で確かなものできなかったとすれば、真剣に取り組んでいなかったと市民に思われても仕方がございません。なぜ確かなものできなかったのか、その理由をお答えください。

続いて、立候補の意思を「我が行く道にいばら多し、されど命の道は一つ、このほかに道はなし、この道を行く」と武者小路実篤の言葉をかりて述べられておりましたが、なぜ責任を持ってみずからの言葉で決意を述べられないのか理解できないことに加え、以前の立候補表明と同じ言葉の使い回しでは、市民の生活を守るという意気込みが全く伝わってまいります。なぜ自分の意思をみずからの言葉で責任を持って市民に伝えることができないのか、お伺いいたします。

次に、「幸い健康状態はよく、気力は充実している」とおっしゃっていましたが、最近、本会議場で市長の声が小さく聞こえにくいと思っているのは私だけではないと思います。加えて、2年前の浅野川水害時は入院されていたことや、次の4年間の任期を終えられると83歳になられることから、健康に対する不安の声が市民の側から聞こえてくるのは当然でございます。そこで、市長の健康状態で市政が停滞することがあってはならないという観点から、この健康に対する自信は何を根拠におっしゃっておられるのか、確認するためにもお聞かせください。

そして、「もしも重ねて市民の皆様の御理解と御支援を得ることができれば、いま一度初心に戻り、志と情熱を持って市政の発展に全身全霊を傾け、みずから燃焼し尽くす覚悟でございます」と述べられております。ここでまず注目すべきは、「いま一度初心に戻り」とありますが、20年前の初心とは何だったのか、また、選挙のたびに初心に戻られ

ていますが、常に持ち続けられない程度の信念なのか、市民に対してお示しください。

次に、「みずからを燃焼し尽くす覚悟である」と言われていますが、市長職は市民を代表する特別な職であるにもかかわらず、これまでその思いで職務を果たされてこなかったのかと疑いたくなる発言でございましたが、仮にその思いで市政に臨まれていたならば、これまでの20年間でなぜ燃焼し尽くし、やりたいことをすべて終えることができなかったのか、お答えいただきたいと思います。

ところで、私がさきの議会でも選の弊害について幾つか問わせていただきましたが、一般的に言われている弊害を改めて指摘しておきたいと思います。それは、強大な権力を同一人物が長期間にわたって独占することで、政治の独裁化を招き、民主主義の本質に反するおそれがある。2、人事の偏向や側近政治化することで、役所が私物化される危険性がある。3、行政がマンネリ化し、職員の士気も沈滞して、清新な行政が期待しがたくなる。4、首長と議会の間一種のなれ合いが生じ、行政についてのチェック・アンド・バランスが保たれなくなるおそれがあることなどでございます。そこで、市長は、本市でこれらの多選の弊害が全く起きていないとお考えでしょうか、改めて御所見をお伺いいたします。

さて、首長の5期という在任期間は一般論では既に多選であることや年齢から、今任期で引退を表明され、後進に道を譲るのが理想であると思っている市民も少なくありませんでしたが、残念ながらその思いに反して、市長は6選への出馬を表明されました。先輩は後輩に何をすべきか、後輩を育てることであるという格言がある一方で、連続しての6期目に挑戦されるのですから、よほどの思いがあると考えますが、多くの市民には何をされたいのか、その思いが伝わっておりません。その思いを改めてお聞きしたいと思います。

最後に、各議員にもお願いしたいと思います。我々民主党だけではなく、各主要政党でも首長の任期制限を設けている一方で、今定例会に金沢市長の在任期間に関する条例案が提出されました。このような状況の下、現職市長が6選に向けて立候補を表明し、11月28日には投票が行われます。仮に4年前のように、議員のほとんどが現職市長を支持したものの、結果が伴わなければ、議会の常識と市民の思いに大きな隔たりがあるということでございます。市民の代表が集まるこの議会が、民意とともに歩む

ことを期待し、質問を終わります。 (拍手)

○田中 仁議長 山出市長。

〔山出 保市長登壇〕

○山出 保市長 12番栗森議員にお答えをいたします。

まず、高齢者の所在確認のことでございますが、確認の方法、また調査の方法、これについては所管の局長からお答えをいたします。

そこで、本市の今後の対応でございますが、高齢社会の進展に伴いまして、支援の必要な高齢者が増加しておると。このことから、これまで民生委員さん、あるいはまちぐるみ福祉活動推進委員さん、そしてお年寄り、地域福祉支援センター、こうした方々及び機関を中心にした見守りだけではありませんで、向こう三軒両隣、これを基本にした地域ぐるみでの高齢者の見守り、これが必要だと思っております。本市の地域福祉計画2008に基づきまして、今後とも地域における協力者、協力団体、これを拡大いたしまして、高齢者の見守りネットワークを強めたい、このように思っています。この際、地域に対しまして、行政情報の目的外利用の余地があるのではなかろうか、個人情報保護条例の規定の見直しの可能性、こういうことにつきまして、一つこの際は研究をしたいと、このように思っておる次第でございます。

非常勤職員の報酬にお触れございまして、本市の財政にどのような影響が及ぶのか、総務局長からお答えをいたします。なぜこれまで議論がなされなかったのかなどのお尋ねがございました。退職時の月額報酬の全額支給につきましては、これまで国会議員の歳費の例によりまして、国に準じた取り扱いは行われてまいりましたために、問題にはならなかったと、このように思います。ここに来まして、国会議員の歳費についての検討が始まりましたことから、議論がされ始めたものでございます。一般的に考えまして、1日だけの在職で報酬の1カ月分全額が支給されるということにつきましては、なかなか難しいのではなかろうかと、そんなことは思ってもみています。条例の改正を視野に議論すべきであると、こう言われるわけでありまして。ここに来まして、国会議員の歳費につきまして、公職選挙法の寄附規定の禁止を適用しない法改正が行われまして、日割り計算とした場合の差額を自主返納することが可能になりましたことや、他の中核市あるいは県内の都市の幾つかが既に日割りによります支給を行って

ると、こういう例もございますので、そうしたことをあわせ考えますと、見直しは一つ検討してまいりたいと、このように思っております。

金沢まちなか学生交流街の拠点整備事業にお触れでございます。今般の計画は拙速ではなかろうかという御趣旨でありました。私は、かねがね金沢というまちは、大学があるからこそ、行政の質でありますとか、市民の生活の向上という面からいいましても、もろもろの施策の質的向上が図られていると、こういうふうにも思っておりますし、そういう意味で大学は大事にしなければいけないと。また、そこに、金沢の場合は近郷含めて3万5,000人の学生がおられるわけでございますので、この学生とまちの暮らし、なりわい、大きいかわりがありますので、学生も大事にしなければいけないと、かねがねそんなふうを考えてまいりました。ここに来まして、学生と市民が一緒になってまちをよくしていくと。そして、市民の暮らしにかかわってくださる。このことがいいと思ひまして、学生のまち推進条例を各位にお諮りを申し上げたわけでありまして。成立をさせていただきますので、早速、実施に移したいと、このように思っておるわけでありまして。そのときには、学生の皆さんの活動の拠点というものが必要でございますし、学生会議を立ち上げたわけでございますが、話をする場所が必要と、こういうふうに思ひまして、実はこの歴史建造物を視野に入れて考えてみたわけでありまして。拠点をづくりまして、ここを中心にして市民や商店街との交流・連携が深まると、こう思っておる次第でございます。集まって、そして談論風発をする、いろいろ活発な活動展開を議論する、そんな場を与える。そして、その場を与える場合には、たまたま歴史建造物というものがございますので、それを活用しておあげする。もちろん歴史建造物でございますので、その修復とか改良とか、こういうことにつきましては、私は、職人・大学校の研修生、修了生の力を得たいと、実はこんなことを思っておるわけでございますし、例えば金沢工業大学の皆さん、学生の皆さんのいろんな知恵も設計の上でおかりをできたらいいなということでございますし、いろんな意味で、私は、この意味づけをして拠点を整備したいと、こう考えておるんでございます。もちろん、このことにつきまして国にお話を申し上げて、私は、経費の約半分は国の支援をいただきたいと、こんなことを実は思っておるこ

とを申し上げて、多面からの考えた結果であるという  
ことを申し上げる次第でございます。

議会軽視ではなかろうかというふうな御趣旨でござ  
いました。施策の推進に当たって、議会にお話を  
申し上げる大切さは認識をしておるつもりでござ  
います。拠点整備につきましては、今ほども申し上げ  
ましたけれども、学生のまち推進条例の施行、それ  
から学生会議の立ち上げ、佐野家住宅が金沢市の保  
存建造物として指定をされた。こうしたもろもろ  
の一連の進行過程で、この話が出てきておるわけ  
でございまして、特段、拙速に走ったわけでもござ  
いせんし、議会の皆さん方を軽視したという思いは  
持っていませんので、どうかひとつ御理解を賜りた  
いと思います。

次に、職員の不祥事についてお触れでございまし  
た。まことに申しわけなく思っております。遺憾で  
ございまして、改めて議員各位並びに市民の皆様  
におわびを申し上げたいと、このように思っており  
ます。これまでも、公務員倫理の研修でありますとか、  
所属長による注意喚起など、不祥事の防止に向けた  
取り組みを続けてきたところでございますが、そう  
した努力にもかかわらず、ここに来て不祥事が  
重なったということを受けて、改めて再発防止に向  
けて踏み込んだ取り組みを行う必要がある、こうい  
う思いを申し上げておる次第でございまして。不祥  
事が再度起きないように、職員一丸となりまして職務  
に励むことで、市民の皆さんの御理解と信頼を取り  
戻すことができたらと、このように願っておる次第  
でございます。

こんな状況のもとで、立候補することはいかかな  
ものかという御趣旨でございまして。まことに申し  
わけなく思っておりますが、目下の市政は大きい変動  
の中でございます。政治もそうでございますし、行  
政もまたそうでございます。加えて、経済事情、財  
政事情は大変厳しいものがございまして、新幹線開  
業を4年後に控えた極めて大事な時期にも遭遇して  
おるわけでございます。こうしたことを総合的に判  
断をし、そしていろいろ考えました結果、実は意  
を決した次第でございまして。もしも重ねて市民の皆  
さんが御支持をしてくださるということであれば、  
私は、市民の暮らしとまちのために一生懸命働いて、  
そして不祥事の信頼回復はもとより、市政の発展に  
寄与したいと、こう思っておることを申し上げたい  
と思います。

管理監督者の処分は減給や訓告でいいのかと、市

民の納得が得られるのかという、そういう御趣旨で  
あったと思います。理屈を言うわけではありません  
けれども、職務外の非行ということについては、一  
般的には管理監督者の責任は問えないと、こんなふ  
うになっておるんでありますが、私は、前例のない  
不祥事が相次いだということのを重く受けとめまして、  
組織の責任者といたしまして、道義的責任を感じて  
みずから減額にしたものでございます。他の監督者  
についても、過去の処分との均衡等を見定めまして、  
処分を行った次第でございまして。同時に、不祥事  
を起こした職員に対しましては、免職等の厳しい処分  
を下しますとともに、より抜本的に踏み込んだ対策  
が必要と考えまして、不祥事故防止対策検討会を設  
けまして、検討を進めているところでございまして。  
早急に意見を取りまとめまして、新たな対策に反映  
させるなど、再発防止に全力を傾けたいと、このよ  
うに思っております。

提案理由の説明に幾つかお触れでございました。

先に、市長選挙に当たっての表明の時期、これに  
お触れになったわけでございます。時期については、  
参議院議員の選挙の期日、これとのかかわりが確か  
にありました。いろんな御意見もいただきました上  
で判断をした次第でございまして。もう一つ、私のか  
ねがねの考えでございまして、私の一身上のこと  
については、やはり議会を通じて行くと、述べるとい  
うのが原則だというふうに考えておったわけでござ  
いまして、こうしたことも踏まえての表明になった  
と、時期になったということで、特段他意はありま  
せん。どうかひとつ御理解を賜りたいと思います。

次に、提案理由の説明で、「市民の暮らしを第一  
義に」という表現をしたと。また、「まちの安定的  
かつ持続的な発展に努めることが肝要だ」と、こう  
いうふうに申し上げたことは事実でございまして、  
このことについてお尋ねになりました。私は、今日  
の社会経済情勢のもとにありまして、市民の生活、  
それから中小企業のなりわい、これは大変厳しいも  
のがあると思っております。景気雇用対策を最優先に  
しなければなりませんし、そのことと大きいかわ  
りを持つのがものづくり基盤の強化であるわけであ  
り、経済の活性化でもあるわけでございまして、こ  
んなことに努力をし、もとより子どもさんのこと、  
お年寄りのこと、障害のある方のこと、こうした  
方々への支援、市民の皆さんの健康づくり、医療の  
体制、環境問題、そして教育、さらには安全・安心  
の確保、こういうことに取り組みなければいけない

ということでございます。これが「暮らし」という言葉の中に包括をされておると、こう御理解をいただきたいと思います。同時に、新幹線の金沢開業が近うございますので、ストックを生かした魅力のあるまちづくり、これを可能ならしめて、内外に発信をしていくと、このことが大事であります。特段、奇をてらうのではなく、基本に忠実にまちづくりを進めて、そしてこのまちの安定的・持続的な発展に資することが大事だと、こう思っておる次第でございます。具体的なことなどたくさんあるわけですが、一例を申し上げれば、2次交通の利便性向上、こういうこともこれから大事なテーマであろうと、こう思っています。そうしたことをすべて包括をして申し上げたと、このように御理解をいただきたいと思います。

「新幹線の開業を4年後に控えて、その道程を一層確かにする」と、こういう表現をさせていただいたわけでございます。私の言う道程というのは、新幹線の開業に向けたこと、向けた道程とか、あるいは金沢以西の道程とか、実はそういうことを言ったつもりはございませんで、平成7年に世界都市構想を策定したわけでございますが、ここに来てユネスコの創造都市の認定、そして日仏自治体交流会議の開催、金沢21世紀美術館とルーブル美術館との連携、こういうことを通じまして、世界都市への道筋というものが少しぼんやり見えてきたような気がいたしております、こういうことをさらにしっかりと確かなものにしたいと、こういう思いから述べたということをお願いしておきたいと思っております。

武者小路実篤の言葉をかりたけれども、みずからの言葉でなぜ言わなかったのかという御趣旨でございました。いろいろ考えに考えたあげく、意を固めた次第でございますが、その際の心境というものを率直に表現をいたしますと、たまたま武者小路実篤の言葉に実は当たったわけございまして、この言葉は私にとりますと「言い得て妙」と、このように思った次第でございまして、だからこそ引用をさせていただいたと、こう御理解をいただきたいと思っております。

健康に対する自信は何を根拠に言うのかという、そんな御趣旨でございました。生身の人間でございますので、絶対とは言えないまでも、私も健康管理には十分気をつけているつもりでございます。年に1回、そして毎月、いろいろ病院で診察を受け、診断を受けるわけでございますが、過日の診断の結果

からいたしまして、市立病院の院長からは「就業は十分可能」、こんなふうに言葉をいただいていることを申し上げたいと思っております。

それから、初心に返れと、何を今さらと、こういう御趣旨であったと思っております。私の座右の銘は「日々新た」、これは「大学」に出てくる言葉なんですけれども、「まことに日に新たに、日に日に新たに、また日に新なり」と、こういう言葉であります。私は、この言葉をほかに使ったのは、川上丈太郎という代議士がいらっしゃいましたが、その人がお使いになったのは承知をしています。私が座右の銘として使ったことは、今までいろいろ公にされていますので、御承知をいただきたいと思っておりますが、旧弊とか因習にとらわれないで、日々新たに、常に新しいものを求めていくと、このことだと思っております。私は、伝統という言葉をよく使いますけれども、伝統も革新があつて初めて伝統たり得るので、革新のない伝統は単なる伝承だと、踏襲だと、こう思っています。このことを絶えず、私、自分に言い聞かせてまいりました。したがって、私の政治姿勢でございまして、終始変わることはなからうと、こう思っておる次第でございます。

みずからを燃焼し尽くす覚悟だと、こういうことを申し上げました。20年やってきて、すべて終えることができなかったのかという御趣旨でございました。バブルが崩壊して20年たちました。国と地方を挙げた、たび重なる景気対策が実施をされたわけでございますが、我が国の現在の経済情勢を見るにつけ、一向によくなっているとは私は理解をいたしておりません。現実にはそれほどたやすくはないという思いを持っておるわけございまして、景気対策、世界都市金沢に向けたまろもろの取り組み、福祉・環境・教育への対応など、いまだになすべきことはたくさんあると、このように思っておる次第でございます。一般論で言いまして、金沢市はよそに比べますと、まあまあそれほど遜色はないというくらいに私は思っているわけでございますが、それでもなおかつ進捗が遅い、あるいは成果が十分でないというふうにおっしゃるのであれば、それは私の力の足りなさを恥じるしかない、こう思っておりまして、一生懸命やるしかない、こう申し上げて御理解をいただきたいと思っております。

多選の弊害をどう考えておるかというふうにお尋ねになりました。私は、日ごろから、いばつちやいかんと、偏つてもいかん、こういうことを人様にも

言ってまいりましたし、自分にも言い聞かせてまいりました。もちろん市政は市長一人でできるものではありません。世代や年代を超えて、あらゆる方々の意見に耳を傾けながら、職員とも意思の疎通を図ることが大事だというふうに思っています。職員の皆さんに私は、口癖のように言いますことは、「市民の立場に立つように」ということでございます。できるだけわかりやすく、丁寧に、親切に、これが市役所の仕事の基本だということを申し上げておまして、大方はその趣旨は理解をしてくださっていると、このように思っておる次第でございます。私自身は、権力の田にあるなんていう意識は、一日も持ったことはありません。事務権限はこの私には与えられていることはたくさんあるわけで、もしも強権力というそういう分野に近いとすれば、法権力の行使と、こういう分野だと思っております。例えて言いますと、住民税の滞納処分、これはまさに法権力の行使と、こう言ってもいいかもしれません。違法建築物の除去命令、これなんかも一緒だと思いますが、これは法律に基づいて、公正確保のためにやるべき仕事でございまして、こうした事柄を除けば、事務権限の行使と、こういう表現で言うてくださることをお願いをしたいと、このように思っておる次第でございます。態度は決して傲慢であってははいけません。市民の皆さんと目線の高さを一緒にする、こういう視点でいかなければいけないと思っておりますし、私は、議会の皆さん方とのかかわりの中でも、それぞれ議論はいたしましても、やはり協力もしていただいております、議会と私の間になれ合いと言われるたぐいのものはない、そのように申し上げたいと思っております。

6期目にかける思いをお尋ねになりました。これは、これからいろいろ機会がございます。市民の皆さんとひざを交えてお話をしていくことになるわけですが、景気と雇用を最優先に、それからそのこととかかわる経済基盤の強化、これに努力をしなければいけないと思っております。新幹線に備えまして、駅西広場の再整備、在来線対策、2次交通の充実、こういうこともあるわけでございますし、まちの魅力づけということになりますと、歴史・文化遺産の保全、町家の再生、ストックを生かしたまちづくり、こういうことに取り組んでいかなければいけないというふうに思っております。市民の暮らしという視点からいきますと、40万人の市民の方々が住んでいらっしゃるしますので、安全・安心の確保、そして美

しくて環境に優しい持続可能なまちをつくっていくこと、そしてたくましくて他者を思いやる心優しいお子さんを育てていくと、こんなことが重点だろうというふうに思っています。そういうことを主張し得るためにも、地方分権の推進は不可欠、このように思っておる次第でございます。

○田中 仁議長 澤田福祉健康局長。

〔澤田 博福祉健康局長登壇〕

○澤田 博福祉健康局長 金沢市の高齢者の所在確認につきまして、本市における100歳以上の高齢者の人数と安否確認の結果をお聞きするとともに、どのような形で確認されたのか伺うというところでございますが、本市における9月1日現在の100歳以上の高齢者数は183人でございます。100歳以上の高齢者のほか、長寿祝い金の対象となる方については、事前にそのリストを民生委員にお渡しをし、極力面接による所在の確認をお願いするとともに、男女最高齢の方から各5人及び本年4月以降に医療保険及び介護保険の利用のない方3人につきましては、職員が直接訪問し、面接を行い、100歳以上の高齢者183人全員の所在を確認したところでございます。

次に、100歳以下であっても、行政や地域の支援が必要な高齢者の方々の状況を把握することは重要であり、本市はどのような形で調査を実施しているかとお尋ねでございますが、支援が必要と思われる高齢者世帯を把握するため、民生委員の方が3年ごとに全高齢者宅を訪問いたしまして、また、毎年新たに65歳になる方を対象として補完調査を行うことにより、高齢者福祉保健台帳を作成し、その実態の把握に努めております。作成した台帳につきましては、民生委員、お年寄り、地域福祉支援センターと市が保管いたしまして、情報を共有することにより高齢者の支援に役立てております。

以上でございます。

○田中 仁議長 丸口総務局長。

〔丸口邦雄総務局長登壇〕

○丸口邦雄総務局長 非常勤職員の報酬等が月額支給であることによる影響額についてお答えをいたします。現行の条例では、議員の方々が任期満了により5月1日付で退職した場合に、その月は一日、1日のみの在職であります。報酬月額が支給されることになっているため、これを日割り計算により支給した場合と比較いたしますと、1人当たり65万円程度多く支給されることとなります。

以上でございます。

〔「議長、12番、再質問」と呼ぶ者あり〕

○田中 仁議長 12番栗森概議員。

○栗森 概議員 それでは、まず最初に、金沢まちなか学生交流の拠点整備について再度お伺いしたいんですが、今、市長のほうは6期目にかける思いの中で、景気雇用対策を最優先にすべきだというふうにおっしゃっておられました。仮に、今、この拠点整備をするのに5億円程度の予算が予定されているんですが、雇用1人当たり250万円だとすれば、200人ですか、の雇用を1年間確保できるぐらい大きなお金であるんです。私は、今、市長がおっしゃったように、景気とか雇用だとか、そういうものはまずは最優先すべき事柄だと思いますし、その辺について再度お伺いしたいのと、この事業でもう一つ確認したいのは、学生に対しての押しつけになっていないのかどうかということを確認したいんです。というのは、やはり学生の感覚でしましたら、堅町の商店街だとか、もっと華やかなところを拠点施設にしているいろいろと行動を展開していく、そんなことを考えられているのではないかなと思うので、そのあたりを再度お願いしたいと思います。

それともう一つ、6期目にかける思いを幾つかお伺いさせていただきました。私は、市長職、そしてこの議員職もそうでありますけれども、サラリーマンの職ではないと思っております。やはり我々議員にいたしましても、市長にいたしましても、4年の任期をいただいた上で、その期間に何を実現するかということがしっかりと市民に伝わらないと、金沢市は何をしているんだ、議員は何をしているんだと言われるもになってしまうので、6期目に向けていろいろとおっしゃっておりました。まちづくり、新幹線、その他もろもろおっしゃっておりましたが、仮に6期目務められて、このことがすべてやり終わられるのかどうかということと、仮にやり終わられないんだとすれば、いずれかのタイミングで後進に道を譲るのが当然だと思うのです。本当にすばらしい人というのは後継者を育てていくというのが私は大事なことだと思うのですけれども、今、市長にはその思いが私には全く受け取れませんし、そのあたりについて再度御答弁をお願いします。

○田中 仁議長 山出市長。

〔山出 保市長登壇〕

○山出 保市長 私は、景気・雇用は大事、しかし、学生と一緒に暮らすまち、これをつくることもこのこととは無縁ではないし、大事だと、このように思

っておるんです。それについては、学生会議というものを立ち上げてございまして、これから、その会議のメンバーは50人なんですけれども、50人と金沢市がお互いにいろんなことを話し合っていこうと。我々の立場から学生に対する責任を果たすということもございましょうし、学生もまた、まちに暮らすわけでございますので、まちに対して愛着を覚えて奉仕もして下さったらなという思いがありまして、こういうことをこれからお互いに議論をしていこうということになると思っています。金沢市が一方的に物事を決めて、こうだあだということをする筋合いのものではありません。学生交流街の運営も、私は、学生主体にしていきたいと、こんなふうに思っています。この事例は、市民芸術村がそうございまして、市民芸術村は行政は一步も二歩も引いています。そして、あそこを利用する人たちが、実は運営をしてくださっておると、そう私は申し上げていいと思っております。今度の学生交流街も市民芸術村方式と、こう申し上げておきたいと思っています。同時に、その場所は確かに木倉町地藏通り、あそこら辺になるわけでございます。佐野家住宅のところになるわけでございますが、同時に、この場所というのは片町にも近うございまして。新天地も、そして近うございまして、また焼き鳥横町も近いわけ。議論をして疲れたら、そこでまた英気を養うと、いろんな人の意見を聞くと、そういう場もあつていいと。学生はそういう場所を私は好むと、そんなふうにも思っております。そういう場所を提供することも大事なことで考えておるんであります。その場所は堅町商店街にも近うございまして。片町、香林坊、堅町、そしてまちなか全体、もっと広がりますと、星稜大学も金沢大学も北陸大学も学院大学も、そして金沢工業大学も金城学園大学も、そういうところに金沢のまちの影響というものは及んでいくと。そうしたところの学生さんも、金沢のまちなかへ集まってくる、そしてまちが元気になる、こういうことを意図しておるわけでございます。雇用・景気も大事、学生もやはり大事にすべき責任を持つまちがこの金沢だと、私は、そのようにさえ思っております。御理解をいただきたいと思っております。国からは約半額のお金を実は呼び込んでくると、こんなことを既に考えておることも申し上げておきます。

そのほか、いろんなことがございましたけれども、金沢のやっていることが、私は、市民の皆さんに伝



わらないと。いろんな媒体を通じてやってございませし、私自身もまちなかに出てミーティングをやったり、タウンミーティングに参加をしたり、いろんなことをするわけでございますが、足らざるところがあれば、なお努力をしなければいけないと思ひませし、同時にこの市政を支えてくださるのは議員各位でもございませして、議員各位と市長が力を合せて、そして、やっていることを市民の皆さんにお示しをして、そして御理解をいただいていく、これもお互いの大事な職責ではなからうかと、こんなふうに思ひていませし。

後継者育成をすべきだというお話がございませし。私は、この事柄については慎重であるべきだというふうに思ひていませし。こういうことをやることこそ、独善の心配はないだらうか、そのことを思う次第でございませして、軽々に後継者づくりなどという言葉は、この私からは発すべきではない、こういうふうに分を戒めていませしと、こう申し上げてお答えにいたしませし。

〔「議長、12番、再質問」と呼ぶ者あり〕

○田中 仁議長 12番栗森慨議員。

○栗森 慨議員 ただいま金沢まちなか学生交流街拠点整備の関係で、国から半額税金がおりてくるから、いいじゃないかというような言い回しでお話されませしでしたが、別に私たち市民というのは、国の税金であらうと、市の税金であらうと、そんなことは全く関係ないんです。何かそのあたりの感覚について、ちょっとお答えください。

○田中 仁議長 山出市長。

〔山出 保市長登壇〕

○山出 保市長 税金に種類はありませし。仰せのとおりです。私もそう思ひていませし。ただ、私にとりませしと、国から税をちょうだいをし、その分、市民の税金は直接的には、一時的には少なくなるわけでありませし。これは財政運営の面から、私は、やはり長としたら考えるべきことと、このように思ひていませし。といひませしのは、例えば交付税とか国庫補助金とか、それは国庫補助金も交付税も原資は税でありませし。だから補助金を要請しないとか、交付税の充実を訴えないうこととは、私は、考えていませしと、やはりそれぞれの立場で言うべきことは言うこと、こうなければいけないと思ひていませし。そして、結果として、市がよくなればいいと、市民の暮らしがよくなればいいと、そういう考えでございませし。

〔「議長、6番、関連」と呼ぶ者あり〕

○田中 仁議長 6番川裕一郎議員。

○川 裕一郎議員 20年間でやりたいことをすべて終えなかつたという質問の中で、市長は国のバブルが崩壊して、国の経済、非常に厳しいものがあつた、現実にはたやすくなかつたという御答弁でありませしでしたが、私は、次の4年間も非常に厳しい財政状況、国も含めて續いていくと思ひていませし。その中で、次、市長は立候補を表明されませししたので、もしも当選されて、4年間の任期の中で、それでも財政的に厳しくて、やはりやりたいことがすべてできなかつたのであれば、例えばその時点で83歳の中で、体力的にも元気があつて、まだ情熱と志があつたのであれば、その段階でまた立候補を表明されるという可能性もあるんでしらうか。私は、どうしてこういうことを言うかと申しませしと、今回の立候補に関しても、多くの市民も含めて、これで市長はすべてやりたいこともやって引退されるんだらうというふうに分ていひた方が多いと思ひ。私もそういうふうに分ていひませしし、私もそう思ひていひませし。しかし、こういう形で、また立候補されるということで、その先のこと、これも実際問題、今の市長の考え方そのまま通していけば、あり得る可能性もあるんじゃないかということ質問させていだきませし。

○田中 仁議長 山出市長。

〔山出 保市長登壇〕

○山出 保市長 今の時点で、私が任期の外のことを軽々に言うということについては、私はやはり慎重でなければいけないと、そんなふうに分ていひませし。問題は当人のやる気、取り組みの姿勢と、このことだと思ひていませし。結果は結果ということでございませしですが、私は、この20年間厳しかつたということは、これはみんながそうなんであつて、国もそうでありませしし、それじゃ、国の施策が成果を講じて、地方の都市は元気になつたでしらうか。私は、そうは必ずしも思ひていひませし。地方は全部、疲弊をしていませし。そういう中で、難しさを実は、国との比較において、またよその都市の比較において申し上げた次第でございませし。そのように事柄は容易ではないと、しかし、一生懸命やつてきたつもりでありませしし、これからみんなが一生懸命やつていかなければいけないと、こういうことを申し上げておる次第でございませし。